

米子市スポーツ推進計画に掲げる施策の事業別実施状況

米子市スポーツ推進計画における施策	具体的事業内容	所管	令和元年度中の取組状況及び成果、課題	実施件数、参加者数等の実績	令和元年度決算	次年度取組予定	
基本方針 I 個々の適性や目的に応じたスポーツ活動の充実							
1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進							
(1) 子供のスポーツ活動の推進							
I-1 (1)-ア	ア 幼児期からの体力向上の推進 親子体力づくり大会	毎年体育の日に未就学の子供とその保護者を対象に、親子体操・リズム体操・器具を使った体操などを行う、親子体力づくり大会を開催します。親子で運動遊びを楽しんでもらうことにより、運動に親しむ機会をつくります。家族で体を動かすことに関心を持ち、運動を積極的に生活の中に取り入れてもらい、幼児期における体力づくりの推進を図ります。	スポーツ振興課	体育の日に市民体育館で開催した。平成30年度に、大会告知用紙の配布数を減らしたところ参加者が大幅に減少したことから、令和元年度は従来どおりの配布方法に戻した結果、平成30年度と比較し参加者が倍増した。そのため、大会の周知方法は現状を維持しつつ、参加者により楽しんでもらえる取組みの創設を目指していく。	【親子体力づくり大会】 R1.10.14(体育の日) 参加者数 384人	開催委託料 38,500円	継続
I-1 (1)-イ	イ 児童生徒のスポーツ活動の充実 少年スポーツ教室	小学生・中学生を対象とする柔道、剣道、陸上競技、ミニバスケットボール、ラグビー、ハンドボール、夏季少年スポーツ教室などの教室を開催します。各教室を主宰する競技団体と連携して、スポーツ教室の充実を図り、各競技の底辺拡大と競技力向上を図ります。	スポーツ振興課	少年スポーツ教室(11教室)を当初計画どおり開催した。参加者数は、平成30年度に比べて900人程度の減少となった。今後も子どものスポーツ活動への参加機会の拡充を念頭に、更なるPRを行い参加を促していく。	【少年スポーツ教室】 参加者数 10,904人 (内訳) ラグビー 601人 柔道 3,521人 剣道 1,545人 ハンドボール 4,240人 陸上競技 302人 ミニバス 271人 体操 251人 夏季テニス 81人 夏季バドミントン 54人 夏季空手道 18人 少年ゴルフ 20人	開催委託料 (内訳) ラグビー 48,000円 柔道 80,000円 剣道 80,000円 ハンドボール 48,000円 陸上競技 48,000円 ミニバス 48,000円 体操 48,000円 夏季テニス 18,000円 夏季バドミントン 18,000円 夏季空手道 16,000円 少年ゴルフ 3,000円	継続
I-1 (1)-イ	イ 児童生徒のスポーツ活動の充実 小学生を対象とする各種大会	少年野球大会、ミニバスケットボール大会、バレー ボール大会、スポーツ少年団交流大会などを開催します。子ども達の体力づくりを含め、各競技の底辺拡大と競技力向上を図ります。	スポーツ振興課	小学生を対象とした少年野球大会及びバレー ボール大会の2大会を開催した。参加者については、平成30年度と比較し、野球大会は微増、バレー ボール大会は微減であり、2大会合計ではわずかに減少となった。少子化の影響で、小学生全体の人数が減少傾向の中ではあるが、競技団体と連携し、競技人口の拡大に向けた取組みを進めていく。	【小学生スポーツ大会】 参加者数 596人 (内訳) 野球 346人 バレー ボール 250人	開催委託料 (内訳) 野球 50,000円 バレー ボール 15,500円	継続
I-1 (1)-イ	イ 児童生徒のスポーツ活動の充実 スポーツ少年団運営事業	米子市スポーツ少年団の事務局として、活動の支援を行い、少年期から幅広いスポーツに親しみ、体を動かすことの楽しさにふれることにより、スポーツ活動を通じた子ども達の健全育成を図ります。	スポーツ振興課	各スポーツ少年団の交流を目的とした「スポーツ少年団交流大会」を開催し、市主催のボッチャ大会に参加した。また、競技別交流大会(軟式野球)を開催したほか、子どもの健全な指導育成を目的とした、「野球ひじ」の検診を昨年に引き続き開催し、青少年の健全育成を図った。課題としては、交流大会の参加者数が昨年度よりも減少してしまったことであり、多くの子どもが競技種目の垣根を越えた交流が行えるよう企画運営に努める必要がある。	【スポーツ少年団交流大会】 R1.11.3 参加者数 40人 【市競技別交流大会】 軟式野球 11チーム 野球ひじの検診 217人	開催委託料 スポーツ少年団交流大会 10,000円	継続
I-1 (1)-ウ	ウ 学校体育・部活動の充実 運動部活動推進事業	中学校の運動部活動において、専門的な指導ができる顧問がいない場合等に、県が実施する外部指導者の派遣事業を活用し、運動部活動の指導の充実を図ることにより、運動部活動の活性化と競技力の向上を図ります。	学校教育課	【配置校】 東山中…女子卓球部 淀江中…男子バスケットボール部 弓ヶ浜中…男女剣道部、男女バスケットボール部、サッカーチーム 後藤ヶ丘中…女子新体操部、男子バレー ボール部、男女柔道部 福生中…男女陸上部、男女バドミントン 【成果】 外部指導者を活用することにより、より専門的な指導が可能になった。	実施校 5校 部活数 10	補助金事業(県と市町で 1/2) 合計 884,800円 (内訳) 市費 442,400円 県補助金 442,400円	補助金事業 (県と市町で 1/2)で継続 予定

米子市スポーツ推進計画における施策		具体的事業内容	所管	令和元年度中の取組状況及び成果、課題	実施件数、参加者数等の実績	令和元年度決算	次年度取組予定
1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進							
(2) 成年期からのスポーツ活動の推進							
I-1-(2)	各種スポーツ大会	市民レガッタ、正月マラソン大会、ドッヂビー大会、インディア大会、スキー大会など、年齢・経験を問わず、市民のだれもが気軽に参加しやすい大会を開催することにより、スポーツ活動の機会を提供し、生涯スポーツの推進を図ります。	スポーツ振興課	生涯スポーツの推進を図るために5大会を実施した。市民交流大会については、平成30年度まで実施していたドッヂビーから、障がいの有無に関わらず誰でも親しむことのできる競技であるボッチャに種目を変更して開催した。ボッチャについては、当課でボールの貸し出しを行っており、今後更なる普及啓発に向けた取組みを行っていきたい。その他の大会では、正月マラソンの参加者が大幅に増えたため、5大会合計の参加者も平成30年度から増加する結果となった。今後も、誰もが親しむことのできる、市民の健康増進に繋がる大会を継続的に開催していきたい。	参加者数 1,708人 (内訳) 市民レガッタ 425人 ボッチャ交流大会 74人 正月マラソン 1,100人 インディア大会 69人 市民スキー大会 40人	開催委託料 (内訳) 市民レガッタ 19,000円 ボッチャ大会 9,000円 正月マラソン 19,000円 市民スキー大会 36,000円	継続
I-1-(2)	市民体育祭	公民館地区又は中学校校区単位のチームで参加できる野球、バドミントン、バレーボール大会などを開催し、競技スポーツに親しむ機会をつくることで、地域住民の交流及び地域のスポーツ活動の推進を図ります。	スポーツ振興課	8大会を実施した。前年度と比べ、卓球、ゲートボールを除き参加チーム数、参加者数が減少している。そうした状況から、種目ごとに競技団体と協議し、参加要項の見直し、年齢制限等の出場資格の緩和や1地区あたりの参加チーム数の枠を広げるなど参加者増加のための取り組みを行っている。	参加チーム 138チーム 参加者数 1,299人 (内訳) バドミントン 4チーム・33人 卓球 11チーム・147人 グラウンド・ゴルフ 70チーム・378人 バレーボール 14チーム・172人 ソフトテニス 10チーム・150人 ソフトボール 6チーム・135人 ゲートボール 13チーム・77人 野球 10チーム・207人	開催委託料 (内訳) バドミントン 42,200円 卓球 24,900円 グラウンド・ゴルフ 19,700円 バレーボール 50,900円 ソフトテニス 16,300円 ソフトボール 58,100円 ゲートボール 34,200円 野球 37,700円	継続
I-1-(2)	体力づくり歩け歩け大会・体力テスト会	スポーツ推進委員が主体となり、健康増進のため、誰でも参加できる毎月1回のウォーキング(歩け歩け大会)、年間2回の体力テスト会を実施します。スポーツや体力づくりへの関心を高め、気軽に運動に親しめる機会をつくり、生涯スポーツの推進を図ります。	スポーツ振興課	【体力づくり歩け歩け大会】 年間11回大会を実施し、新型コロナウイルスの影響で3月開催の大会を中止した。1回大会を中止したため前年度と比べて参加者数は減少したが、中止の大会がなければ、天候に恵まれていたこともあり、前年度より参加者数が増加していた。リピーターの参加者が多く、参加者同士が顔見知りであり、コミュニケーションの場としても大会を楽しんでいる。新規参加者が少ないことが課題であるため、引き続き大会の周知と内容の充実、ウォーキング習慣の普及を目指す。また、公道を歩くため、安全の確保には留意していきたい。 【体力テスト会】 文科省からの委託事業として実施した。前年度と比べ、参加者数は減少した。より一層開催の周知に努める。	【体力づくり歩け歩け大会】 11回実施 延参加者数 339人 【体力テスト会】 2回実施 延参加者数 48人 (前期) R1.6.2 車尾小学校体育館 18人 (後期) R1.10.20 成実小学校体育館 30人	【体力づくり歩け歩け大会】 旅費 37,440円 施設使用料 11,200円 【体力テスト会】 開催委託料 24,000円	継続
I-1-(2)	いきいき健康ライフ教室	前年度の健診結果で、特定の検査項目が要指導だった40歳から64歳の方を対象に、健康体力診断、運動プログラムの作成、運動指導、食生活や日常生活の個別指導、講義を行うことで、健康づくりを図ります。	健康対策課	10回シリーズの教室を開催し、生活習慣の改善、継続的な運動実践に向けて支援を行った。平均出席率は78%。教室参加者に、生活習慣の改善がみられ、教室終了後も継続して実施できていた。	年間10回開催 参加実人数 24人 延参加者数179人	講師 123,200円 (15,400円×8回) 運動指導士 45,500円 (6,500円×7回) 栄養士 13,600円 (3,400円×2人×2回) 看護師30,600円 (3,400円×1人×9回) 運動測定及び運動プログラム作成委託料 200,000円 通信運搬費 6,180円 消耗品費 2,592円	継続

米子市スポーツ推進計画における施策	具体的事業内容	所管	令和元年度中の取組状況及び成果、課題	実施件数、参加者数等の実績	令和元年度決算	次年度取組予定
1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進						
(3) 高齢者のスポーツ活動の推進						
I-1-(3) がいなみく予防トレーニング（通所型運動機能向上事業）	生活機能の低下が認められる高齢者を対象に、フィットネスクラブ、介護保険施設等で筋力トレーニング・有酸素運動・ストレッチ等を、理学療法士・作業療法士又は健康運動指導士により行います。運動することの楽しさを体感し、運動効果を理解してもらうことで、運動習慣につなげることを目指します。	健康対策課	13ヶ所のフィットネスクラブや介護保険施設で実施。がいなみく予防トレーニング終了後も、そのまま利用した施設で一般利用につながっている方が多い。	【がいなみく予防トレーニング】 参加実人数 404人 延参加者数 4,561人 ※実施回数は、施設ごとで曜日や時間が異なるため不明	6,534,849円	継続
I-1-(3) ふらっと運動体操（通所型運動機能向上事業）	高齢者を対象に、ふれあいの里等、市内3箇所の施設に設置された運動トレーニング機器を開放し、予約なしでふらっと立ち寄り気軽に運動できる環境を整備することにより、運動することの楽しさを体感し、運動効果を理解してもらうことで、運動習慣につなげることを目指します。	健康対策課	各々のペースで、メニューを考えて運動する雰囲気が定着している。また、各会場で参加者同士の会話も見られ、仲間づくりにも繋がっている。今後は体力測定等、運動効果の検証を行い、より充実した事業を開していく必要がある。	【ふらっと運動体操】 延参加者数 3,538人 実施回数 130回	1,616,800円	継続
I-1-(3) よなGO!GO!体操普及事業	高齢者が楽しく運動できるように「365歩のマーチ」の曲に合わせて、立ったり座ったりなど日常生活の動きを取り入れながら、普段動かさなくなった関節や筋肉を動かす体操です。よなGOGO体操を普及させ、高齢者が出来るだけ、長く健康でいきいきした生活を送れるよう、運動習慣のきっかけづくりとすることを目指します。	健康対策課	各地区の健康づくり・地域サポーターがサロンや地域の行事でよなGO!GO!体操を実施。地区によっては、地域サポーターが少なくなっている。	各地区ごとのよなGO!GO!体操の実施回数の把握はできていない。	なし	継続

米子市スポーツ推進計画における施策	具体的事業内容	所管	令和元年度中の取組状況及び成果、課題	実施件数、参加者数等の実績	令和元年度決算	次年度取組予定
基本方針 I 個々の適性や目的に応じたスポーツ活動の充実						
2 障がい者のスポーツ活動の推進						
I-2 福祉大会等開催助成事業	鳥取県内で実施されている、さわやか車いすマラソン大会、手つなぐスポーツ祭、アクアスロン皆生大会等の障がい者の各種大会の開催経費の一部を助成します。大会を通じて、障がい者がお互いの理解と親睦を深めると共に、積極的に社会参加する意欲を喚起することを目指します。また、市民の障がい者に対する正しい理解の啓発を図ります。	障がい者支援課	鳥取県内で実施された障がいのある人の大会である車いすマラソン大会、アクアスロン皆生大会について、開催経費の一部を助成しました。大会を通じて、障がいのある人がお互いの理解と親睦を深めると共に、積極的に社会参加する意欲を喚起した。また、市民の障がいに対する正しい理解の啓発を図った。	【さわやか車いすマラソン大会】 R1.9.7(開会式) R1.9.8(本大会) 参加者数 選手 1,203人、関係者 600人 【アクアスロン皆生大会】 R1.10.13(前夜祭) R1.10.14(本大会) 参加者数 選手 109人、関係者等(ボランティア含) 311人	【さわやか車いすマラソン大会】 補助金 70,000円 【アクアスロン皆生大会】 補助金 100,000円	継続
I-2 各種スポーツ・体操講座(障がい者福祉施設管理運営事業)	指定管理者の自主事業として、米子市心身障害者福祉センター又は米子サン・アビリティーズで、グラウンドゴルフ、ヨガ、卓球等の講座や、車椅子バスケットボール、風船バレー、GOGO体操等のスポーツを行います。スポーツを通じて体を動かす喜びを知ってもらうことで、身体能力の向上と仲間との交流を図ります。また、運動不足になりがちな障がいがある人が、スポーツを通じて体を動かす喜びを知り、身体能力の向上と仲間との交流を図った。	障がい者支援課	指定管理者の自主事業として、米子市心身障害者福祉センター又は米子サン・アビリティーズで、グラウンドゴルフ、ヨガ、卓球等の講座や、車椅子バスケットボール、風船バレー、GOGO体操等のスポーツを行った。 運動不足になりがちな障がいがある人が、スポーツを通じて体を動かす喜びを知り、身体能力の向上と仲間との交流を図った。	グラウンドゴルフ 26回 ヨガ 11回 卓球 24回 車椅子バスケットボール 23回 風船バレー 20回 アーチェリー 52回 GOGO体操 24回	指定管理料 717,281円	継続
I-2 米子市こころの広場事業	在宅療養中で、精神に障がいのある方が、体育施設等でスポーツ(卓球、バドミントン、風船バレー等)を行うことで、他者との交流を図ります。	障がい者支援課	年1回(6月)にスポーツを計画し、実施した。 年計画の他に、スポーツ交流会(地域活動支援センターエポック翼主催)へ参加し、市内の事業所へ通っている仲間と交流を図った。	【スポーツ(卓球、バドミントン、風船バレー、フットサル、ミニボーリング)】 R1.6.20 米子サン・アビリティーズ 参加者数 11人 【スポーツ交流会(卓球、バレー、ソフティーボール、レクリエーション)】 R1.9.27 市民体育館、東山体育館 参加者数 5人	報償費 6,500円 消耗品費 15,996円 その他使用料 900円	継続

米子市スポーツ推進計画における施策	具体的事業内容	所管	令和元年度中の取組状況及び成果、課題	実施件数、参加者数等の実績	令和元年度決算	次年度取組予定
基本方針Ⅱ スポーツ活動によるコミュニティづくりと地域振興						
1 地域のスポーツ活動の推進						
II-1 スポーツ推進委員協議会運営事業	米子市スポーツ推進委員協議会を運営し、スポーツ推進委員により、住民に対するスポーツの実技の指導その他、スポーツに関する指導及び助言を行うことで、地域でのスポーツ活動の活性化に向けた取り組みを行い、生涯スポーツの推進を図ります。	スポーツ振興課	【スポーツ推進委員協議会】 市民を対象とした体力づくり歩け歩け大会、体力テスト会(2回)、ボッチャ交流大会の開催、機関紙の発行など主管事業を開催した。また、協議会内部の事業として、スポーツ推進委員を対象としたボッチャ大会、ニュースポーツ講習会(ボッチャ、ワンバウンドふらばーるバレー、バレーボール)、ストレッチ体操研修会を実施した。	【ボッチャ大会】 参加者数 26人 【ボッチャ講習会】 参加者数 32人 【ワンバウンドふらばーるバレー、バレーボール講習会】 参加者数 31人 【ストレッチ体操研修会】 参加者数 21人	スポーツ推進委員協議会運営費 2,010,000円	継続
II-1 学校体育施設開放事業	小中学校の体育館やグラウンドを学校運営に支障のない範囲で地域に開放します。学校体育施設を有効活用することにより、地域住民にスポーツ活動の場を提供し、地域でのスポーツの活性化を図ります。	スポーツ振興課	予定どおりに実施した。 今後も学校及び各地区の管理運営委員会で利用調整を図り、学校体育施設の開放に努める。	【利用実績】 小学校 16,558件、368,440人 中学校 2,449件、37,018人 【学校当たり平均実績】 小学校(23校) 719件、16,019人 中学校(11校) 222件、3,365人	印刷製本費 85,752円 消耗品費 748,221円	継続
II-1 やって未来や塾(米子市地域健康づくり応援事業)	地域住民を対象に、健康運動指導士が運動を主体とした健康づくりのための運動指導及び活動支援を行います。地域住民が、自主的な活動として楽しく継続的に取り組んでいくことを支援し、運動を主体とした健康づくりを図ります。	健康対策課	継続的支援、新規立ち上げ支援を行った。 普段から積極的に取り組んでいるグループに対し、年3回運動等の内容についての支援を行い、自主活動の充実につなげた。 新規の立ち上げが6か所あり、今後も増やしていきたい。	【新規活動支援】 6ヶ所、40回 延参加者数 577人 【継続活動支援】 28ヵ所、78回 延参加者数 1,240人	710,000円	継続
II-1 米子市健康づくり地域サポートー養成事業	地域で運動を主体とした健康づくり活動をしたい方が、「健康づくり地域サポートー」として、地域で健康づくり活動を推進していきます。地域サポート講座や研修会等で得た介護予防に関する知識の地域への普及、「よなGOGO体操」の普及活動、地域の体力測定会やサロンでの健康づくり活動のサポートなどを行うことで、地域全体での高齢者を支える仲間づくりをすすめ、地域での健康づくりを目指します。	健康対策課	地域サポート講座基礎編とスキルアップ編を実施し、地域でのサロン活動に活かしてもらった。 サポートーの平均年齢が高くなっていますが、地域によってはサポートーの数が減少していることから、若いサポートーの確保が必要である。	【基礎編】 1回 参加者数 108人 【スキルアップ編】 4回 参加者数 会場1:39人、会場2:21人、会場3:41人、会場4:29人	122,508円	継続

米子市スポーツ推進計画における施策	具体的事業内容	所管	令和元年度中の取組状況及び成果、課題	実施件数、参加者数等の実績	令和元年度決算	次年度取組予定
2 スポーツに触れる機会の提供						
II-2 プロスポーツの支援活動	地元で活躍するプロスポーツチームの活動を応援し、また、競技、チームに関する情報発信や、ホームゲームに合わせてイベントを開催するといった、市民にプロスポーツをより身近に感じてもらえるような機会の提供に努めます。	スポーツ振興課	ガイナーレ鳥取ホームタウンデーの開催に合わせ、初の試みとして、民間企業及び競技団体と共同で企画運営を行い、芝生を活かしたスタンプラリー式のイベントを実施した。成果としては、ホームゲームを盛り上げると共に、スポーツの持つ魅力を年齢を問わず、様々な方々に伝えることが出来たことである。 課題は、市民にプロスポーツをより身近に感じてもらえるような「新規事業」の創出である。	【ガイナーレホームタウンデイイベント】 R1.10.20(日) 参加者数168人	消耗品費 68,205円	継続
II-2 全国トライアスロン皆生大会	日本トライアスロン発祥の大会であり、本市を発着点として鳥取県西部一円で開催されています。大会では毎年数多くのボランティアの方が参加し、市民と選手が直接触れ合う機会となっています。この大会の開催を支援し、観光資源として活用することにより、誘客を促進し、地域振興を図ります。	スポーツ振興課	令和元年7月に「全日本トライアスロン皆生大会第39回大会」を予定どおり開催した。 例年になく涼しい気候に恵まれたこともあり、好記録が連発され、完走率も9割を超えた。 個人の部、リレーの部とも定員を大きく上回る参加申込みがあり、4,000人を超える地元ボランティアが参加するなど、地域を代表する一大イベントとなっており、県外から多数の選手が参加することで、経済波及効果も大きい。 今後も更なる発展に向けて関係者と連携していく。	【全国トライアスロン皆生大会】 参加者数 個人934名、リレー61チーム 申込総数 個人1,662人、リレー82チーム	事業費(委託料) 9,313,004円	継続
II-2 皆生・大山SEA TO SUMMIT	日本海から大山山頂までをカヤック・自転車・登山の3種目で目指す体験型環境スポーツイベントです。この大会の開催を支援し、観光資源として活用することにより、誘客を促進し、地域振興を図ります。	スポーツ振興課	当初の計画とおり開催した。 令和元年度大会は第11回大会となり、今大会から電動アシストバイクでの参加を可能として、より多くの人の参加を図った。 今後も参加人数の増加を目指し、鳥取県、大山町、日吉津村と連携を図り地域の魅力を発信していきたい。	【皆生・大山SEA TO SUMMIT2019】第11回大会 参加者数 204人	事業運営負担金:500,000円 報償費:10,000円	継続
基本方針III スポーツ環境の充実						
1 競技力の向上						
III-1 体育協会運営事業	米子市体育協会を運営し、スポーツ団体との連絡調整を行い、優秀な成績を収めた競技者を表彰するなどして、各種スポーツの振興を図るとともに、各競技団体の競技力向上を図ります。	スポーツ振興課	米子市体育協会として、以下の事業を実施した。 ・10種目のスポーツ教室、9種目のスポーツ大会、8種目の市民体育祭を加盟団体に委託して実施することにより、市民体育行事への推進と協力を図った。 ・鳥取県民スポレク祭実行委員会に参画し、加盟団体に対し参加の呼びかけと参加者の取りまとめを行った。 ・県大会以上の大会で優れた成績を挙げた小学生から一般の選手について、加盟団体からの推薦に基づき選考し、表彰した。 ・全国大会に出場した小学生に対して、激励金を交付した。	【鳥取県民スポレク祭参加者実績】 2,247人 【スポーツ表彰事業】 個人 175人 団体 58団体 【小学生全国大会出場激励金交付事業】 個人 16名 48,000円 団体 8団体 142,000円 種目 柔道、剣道、卓球、陸上、ソフトテニス、バレー、ハンドボール、フットサル、バドミントン	米子市体育協会補助金 74,000円	継続
2 スポーツ施設等の充実						
III-2 体育施設管理運営事業	体育施設については、各種スポーツ大会の会場及び災害時の避難所となるため、危険箇所および老朽箇所の改修を行い、利用者に安全・快適に体育施設を利用してもらえるよう管理運営に努めます。	スポーツ振興課	・市民体育館 整備方針を継続検討中。令和2年度に整備検討委員会を開催する。 ・錦海漕艇場 修繕を必要とする桟橋の撤去、新設及び改修工事を行った。ボートコースの支柱を修繕した。修繕した箇所以外について老朽化が進んでおり、利用者及び海上の安全のために、適宜改修が必要である。 ・淀江体育館 非常用発電機をアリーナも含めた全館対象のものに改修した。 ・弓ヶ浜体育館 公共下水道の供用開始区域になったことから、下水道接続工事を行った。	【錦海漕艇場】 桟橋及び支柱改修 【淀江体育館】 非常用発電機改修 【弓ヶ浜体育館】 下水道接続	【錦海漕艇場桟橋改修工事】 33,797,500円 【錦海漕艇場支柱修繕】 3,762,000円 【淀江体育館非常用発電機改修工事】 22,325,600円 【弓ヶ浜体育館下水道接続工事】 6,215,000円	継続